



市議会議員

宮城とみ子

プロフィール 1951年東京都墨田区生まれ。青山学院大学文学部第2部卒。1982年より沖縄県名護市に14年間在住。この間、学童クラブ指導員、ホームヘルパーなどに従事。現在、鎌ヶ谷市議会議員2期 教育福祉常任委員。

主な活動地域 鎌ヶ谷1*9丁目、東初富1*6丁目、丸山1*2丁目、東鎌ヶ谷1*3丁目、南鎌ヶ谷1*4丁目、東道野辺3*7丁目、初富（東部地域）

現場第一の“草の根政治家”

安全で
おいしい
給食を

子どもたちの成長を支える学校給食。自公直営を貫くとともに地産地消で安心安全、地域経済・農業振興にもつなげる学校給食を4年間にわたり提案してきました。

大規模給食センターの建替えと同時の民間企業丸投げ計画はストップさせ、自公直営の給食実現に頑張ります。

老朽化が進む市内の公共施設。学校や保育所を訪問し、現場の先生から話を聞いて回りました。壁の亀裂やタイルのはがれ、壊れた窓枠、朽ちた柱など、議会質問で改善を求め、修繕を約束させました。



学校・
保育所の
施設改善

その他
にも...

議会では毎回質問に立ち、国保・介護、子どもの医療費助成、保育所の増設、市長の退職金から北総線の値下げまで、現場の市民目線を大切に活動してきました。しっかり発言・きちんと報告の「みやぎ通信」はもうすぐ100号。これからも現場第一で頑張ります。

かまがや民報
市政報告

2011年 4月号 日本共産党鎌ヶ谷市議団
電話：047-446-0351 (FAX共通)

救援・復興に全力

いのち守れる市政へ!

3月11日に発生した東北関東大震災では多くのいのちが失われました。鎌ヶ谷市でも5名が軽傷、火災が3棟、屋根や塀など建物の一部破損が169件などの被害が発生しました。

日本共産党は救援・復興に全力で取り組み、皆さんと協力して大災害に立ち向かいます。

日本
共産党

大震災、復興支援に奔走

大地震発生後、みやぎ市議・はぎの市議を先頭に災害対策本部を設置。地域の日本共産党後援会と被害状況の調査を実施して正確な情報収集と提供をおこなうとともに、復興支援のための義援金活動を展開しました。また福島から鎌ヶ谷市内への避難者を訪問、はげますとともに要望の聞き取りをおこないました。



災害に強いまちづくりを全力で促進



日本共産党鎌ヶ谷市議団はこれまで災害に強いまちづくりをすすめてきました。木造戸建て住宅の耐震工事助成制度を実現させるとともに、4年間で学校の耐震化率を17%から58.8%へ大幅に向上、「聞き取りづらい」と苦情の多い防災無線も佐津間地域などで改善させました。

あらたな課題も浮き彫りに

多くの家で屋根瓦が落ちたなど建物の一部破損が報告されています。日本共産党が議会で提案してきた「リフォーム助成制度」が実現されれば、災害時の修繕にも活用できます。早急な制度づくりが必要です。

また福島からの避難者支援も長期化を視野に入れた対応策を検討しなければなりません。水道水の放射能汚染や計画停電など市民への情報提供の遅さなども含め、大震災で浮き彫りになった課題の改善に引き続き取り組みます。

原子力行政は 抜本的転換を

福島第一原発について日本共産党は重大事故に陥る危険性を国会で繰り返し指摘し、東電・国に対策を求めてきました。今回の事態は「想定外」ではなく「人災」です。「安全神話」と決別し、全国の原発の再点検を実施するとともに、原子力頼みのエネルギー政策を見直すべきです。

震災対策の 財源は?

- ①2兆円にも及ぶ大企業・大資産家への減税、米軍への「おもいやり予算」、政党助成金などの廃止。(年間5兆円)
- ②従来の国債とは別に「災害復興国債」を発行。国債の引受先として大企業に244兆円の内部留保活用を求める。

下総基地

飛行機騒音問題の解消を!

「電話やテレビの音が聞こえない」「子どもが眠れない」「頭痛が治らず体調が悪い」「午後5時以降や土・日など休日の飛行はやめて欲しい」など多数の声がよせられています。みなさんと声を合わせて夜間の飛行や低空飛行をやめさせましょう。

